

JVCケンウッド 決算説明会

2013年(平成25年)3月期 第2四半期

株式会社JVCケンウッド

【資料中の略語】

CE : カーエレクトロニクス(事業)

PS : 業務用システム(事業)

COM : 無線機器(事業)

BS : ビジネスソリューション(事業)

HM : ホーム&モバイルエレクトロニクス(事業)

音響 : 音響機器(事業)

映像 : 映像機器(事業)

SE : エンタテインメント(事業)

2013年3月期 第2四半期決算概況

取締役 兼 CFO 藤田 聡

2013年3月期 第2四半期決算(累計) サマリー

<前年同期比>

円高、欧州経済の悪化、タイ洪水の影響などにより減収減益

<期初予想比>

売上高は円高などがマイナス要因、損益はSEの好調などにより想定以上

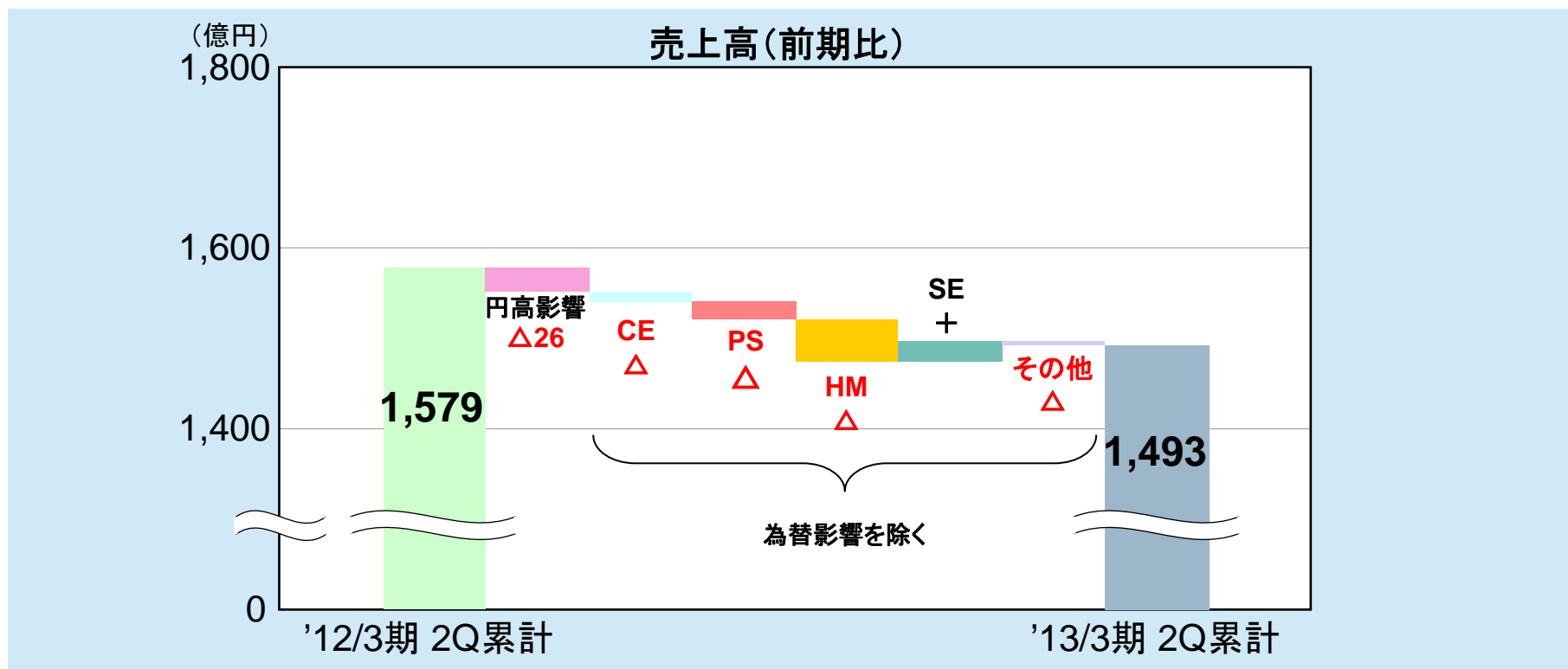
(億円)

		売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
2 Q 累 計	'13/3期	1,493	44	30	12
	'12/3期	1,579	69	64	49
	前期比	-86	-26	-34	-36

損益為替レート		1Q	2Q
'13/3期	米ドル	約80円	約79円
	ユーロ	約103円	約98円
'12/3期	米ドル	約82円	約78円
	ユーロ	約117円	約110円

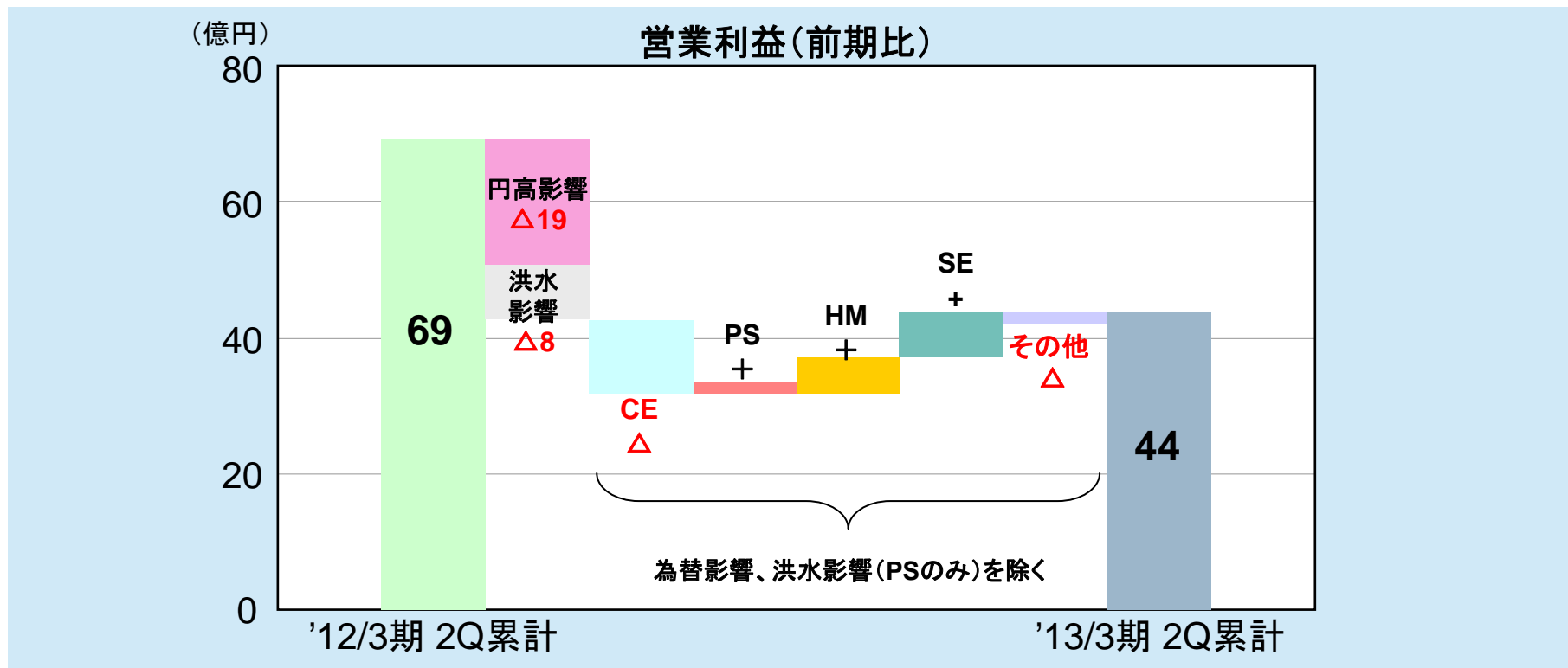
2Q累計実績: 1,493億円 (前期比5.4%減収)

- * 円高、欧州経済の悪化、HM一部機種絞り込みなどにより減収
- * CEとCOMを中心に国内、北米、アジア販売は堅調、SEはヒット作品を多数輩出
- * 期初予想比では、円高、CE国内販売減速(2Q)、BS一部出荷遅れ(2Q)がマイナス要因



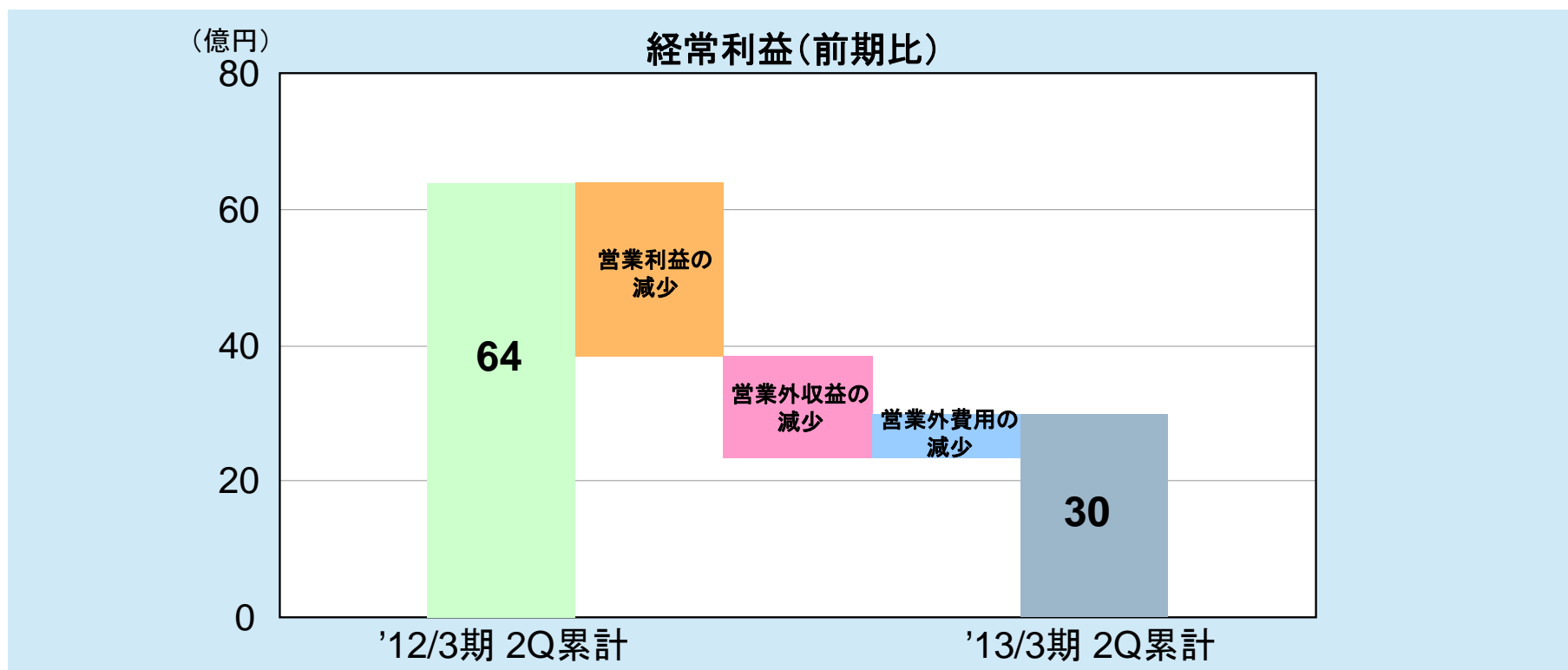
2Q累計実績:44億円 (△25億円)

- * 対ユーロを中心とした円高(△19億円)、タイ洪水による一時的なコスト増(△8億円)により減益
- * 欧州経済の悪化、特許料収入の減少、人件費増加などの減益要因は吸収
- * 期初予想比では、CE国内販売減速やBS一部商品出荷遅れを、SEヒット作品輩出とHM収益改善で吸収し、想定以上



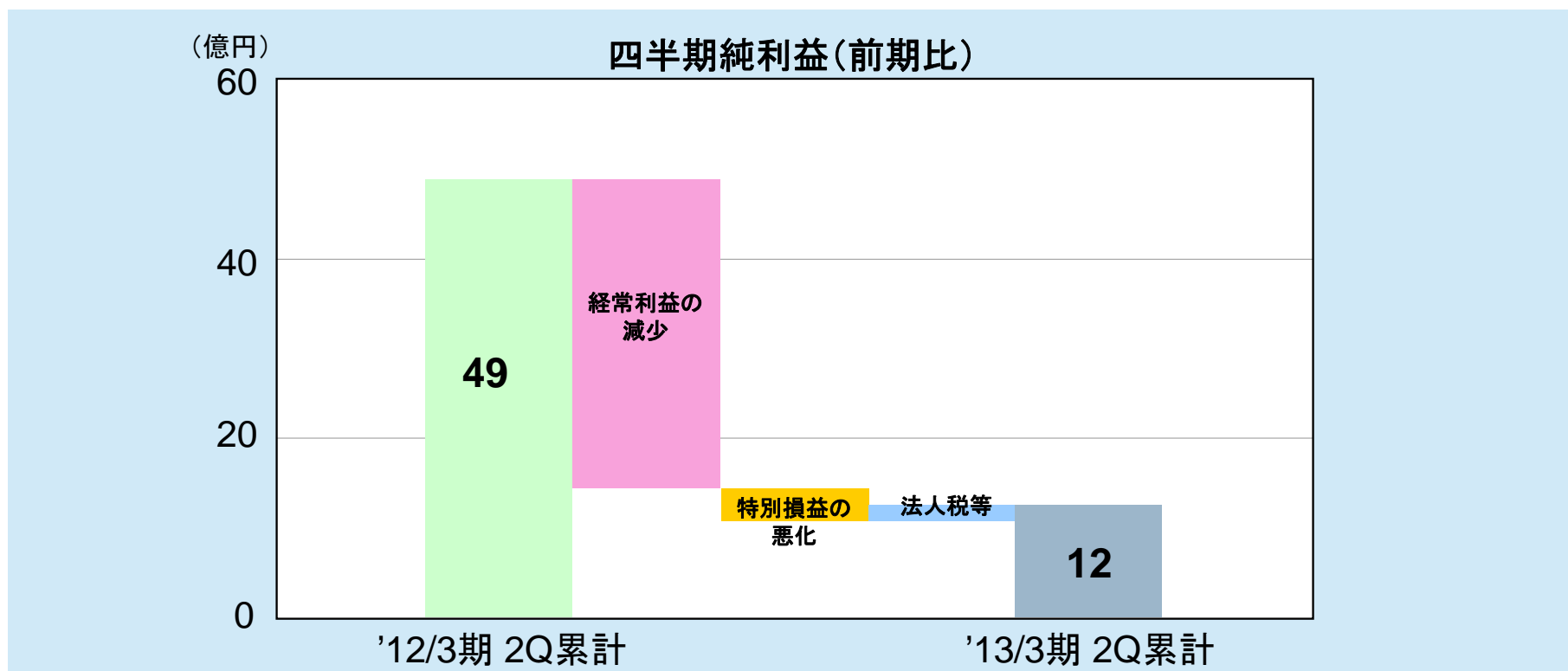
2Q累計実績:30億円 (△34億円)

- * 営業利益の減少、為替差益の減少により減益
- * シンワの持分法投資利益を計上したものの、為替差益の減少により営業外収支は約9億円悪化

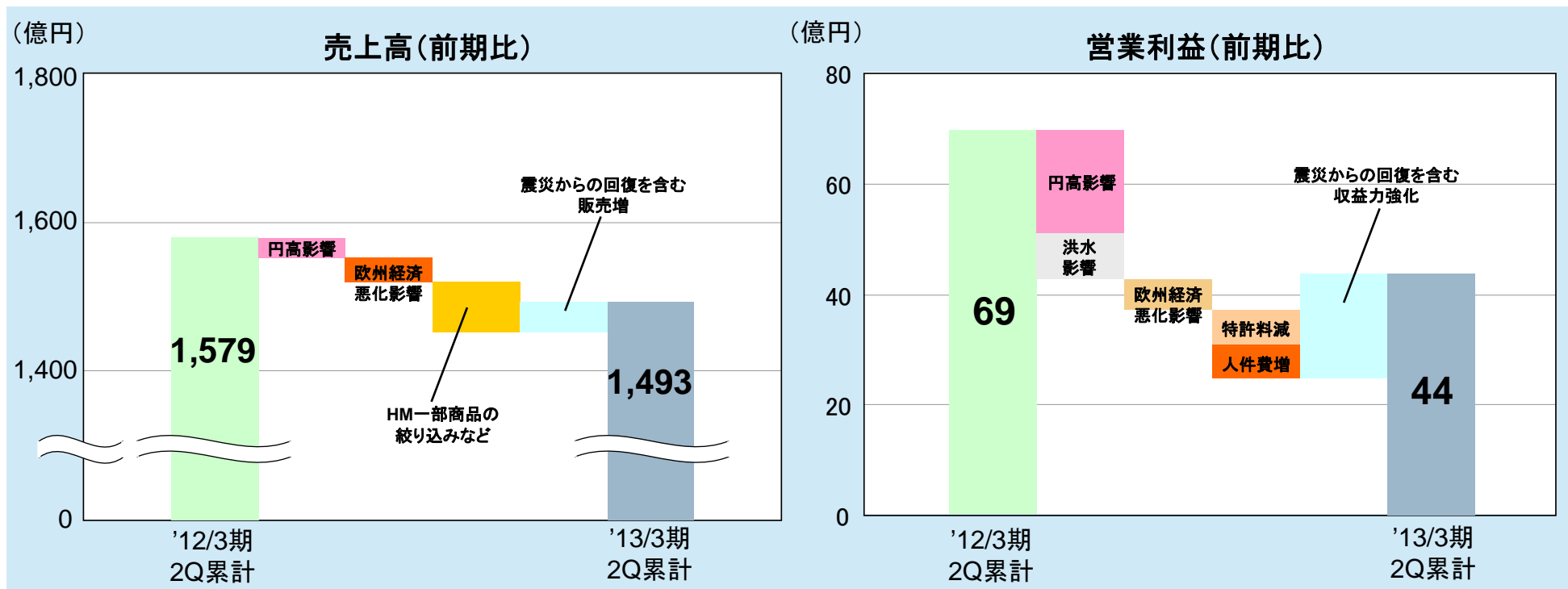


2Q累計実績:12億円 (△37億円)

- * 経常利益の減少により減益
- * 海外での雇用構造改革費用や投資有価証券評価損の計上などにより特別損益は約4億円悪化
- * 法人税等は約3億円減少



- * 前期比でユーロ11%の円高、欧州経済の悪化、HM一部機種絞り込みが主な減収要因
- * 対ユーロを中心とした円高(△19億円)、タイ洪水影響(△8億円)が主な減益要因
- * 欧州経済悪化の影響、特許料収入の減少、人件費増加などの減益要因は各事業の収益力強化で吸収



セグメント別情報

セグメント別売上高および損益 サマリー

* 2Q累計では、SEが増収増益。CE、PS、HMは減収減益。

* 2Q(7~9月)は、減収減益ながら、1Q比で売上高・営業利益とも伸長。
4事業セグメント黒字。

(億円)

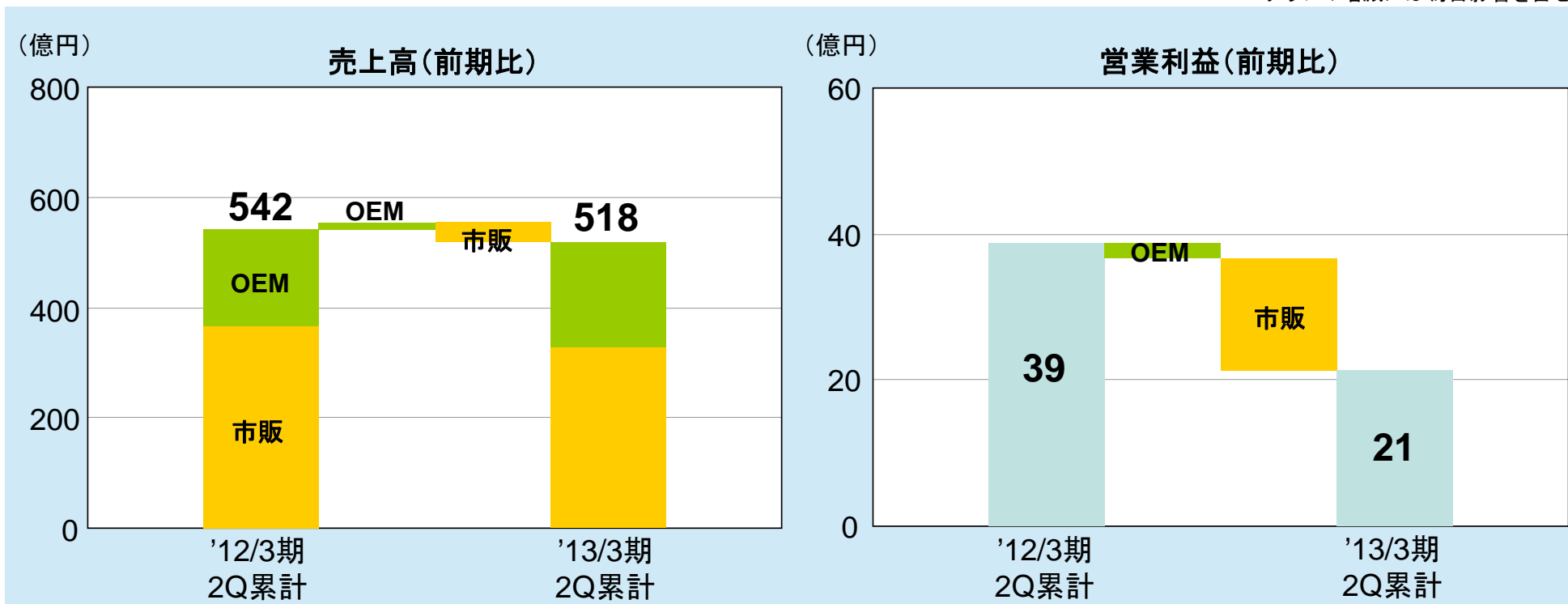
セグメント		第1四半期			第2四半期			第2四半期累計		
		'13/3期	'12/3期	前期比	'13/3期	'12/3期	前期比	'13/3期	'12/3期	前期比
カーエレクトロニクス (CE)	売上高	271	266	+5	247	276	△ 29	518	542	△ 24
	営業利益	15	17	△ 2	6	21	△ 15	21	39	△ 17
業務用システム (PS)	売上高	200	216	△ 15	225	235	△ 9	426	450	△ 25
	営業利益	-3	5	△ 8	10	13	△ 3	7	18	△ 11
ホーム&モバイルエレクトロニクス (HM)	売上高	161	187	△ 26	165	193	△ 28	326	380	△ 54
	営業利益	1	2	△ 1	3	4	△ 1	4	6	△ 2
エンタテインメント (SE)	売上高	89	90	△ 1	112	90	+22	201	180	+21
	営業利益	7	5	+2	6	2	+4	13	6	+7
その他	売上高	10	13	△ 3	12	13	△ 1	22	26	△ 5
	営業利益	-0	1	△ 1	-1	-1	△ 0	-1	0	△ 2
合計	売上高	731	772	△ 41	761	807	△ 45	1,493	1,579	△ 86
	営業利益	20	30	△ 10	24	39	△ 15	44	69	△ 26

2Q累計 売上高:518億円(△4.4%) 営業利益:21億円(△17億円)

市販: 国内、アジアを中心に堅調持続。欧米では高シェア持続も、欧州では対ユーロ円高や市場低迷で悪化。国内では「彩速ナビ」でシェアアップも2Qに販売減速。

OEM: DOPが2Qに減速も、安定した収益計上。CD/DVDメカは伸び悩み、光ピックアップは堅調持続。

グラフの増減には為替影響を含む

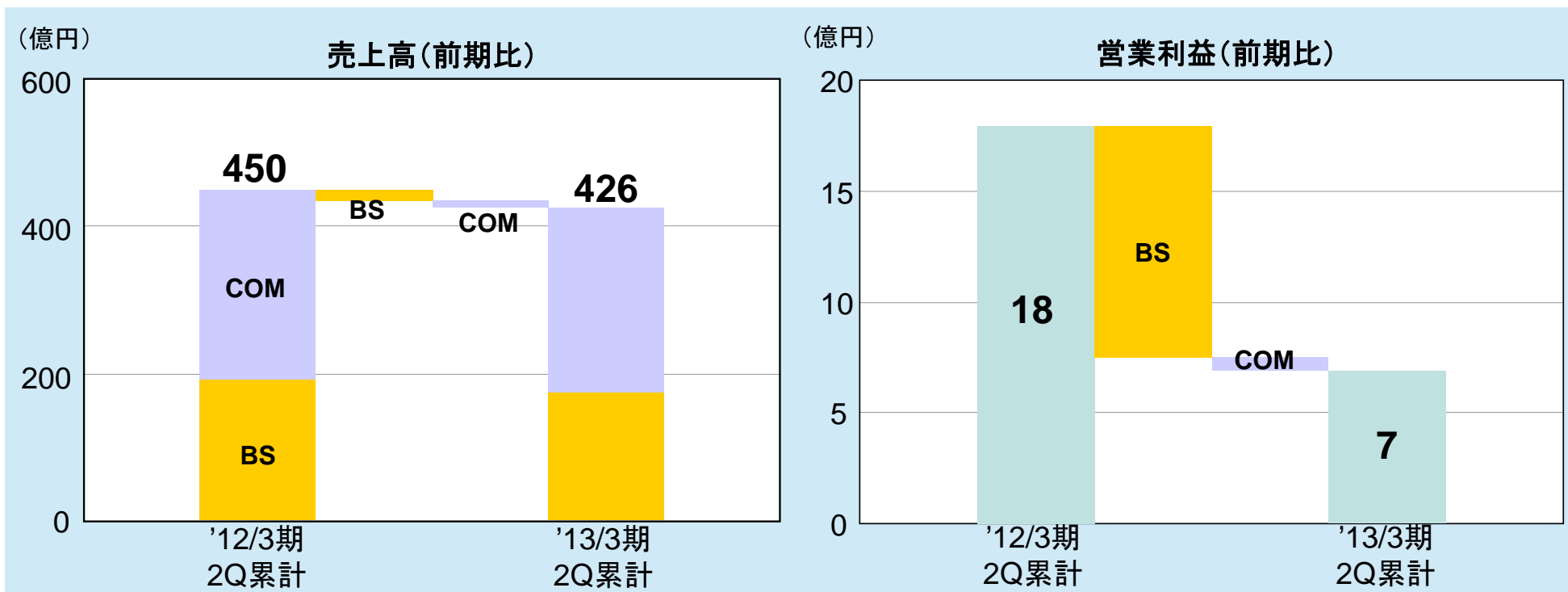


2Q累計 売上高:426億円(△5.5%) 営業利益:7億円(△11億円)

COM: デジタル無線機器P25、NEXEDGEの販売が北米を中心に好調持続。円高影響やコスト増を吸収して前期並みの売上高、営業利益。

BS: 円高や欧州経済の悪化、タイ洪水影響(△8億円)、2Qの一部商品出荷遅れで減収減益。6月よりタイ洪水影響がなくなり、2Q損益は1Q比で大幅改善。

グラフの増減には為替影響、洪水影響を含む

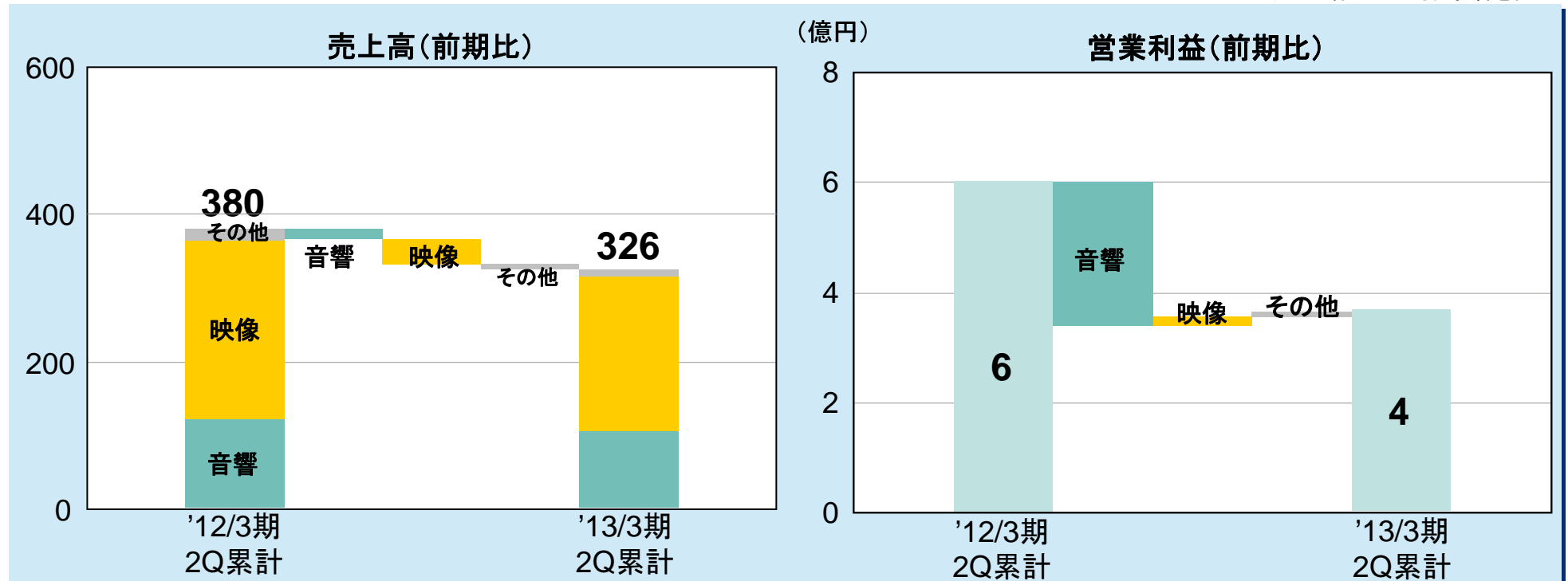


2Q累計 売上高:326億円(△14.1%) 営業利益:4億円(△2億円)

音響: AVアクセサリが高収益性持続。ホームオーディオは市場縮小の影響を受けるも、提案型商品導入で商品構成改善。

映像: プロジェクター苦戦も、Wi-Fi対応カムに続いて国内外にスポーツカム導入でカムコーダー黒字転換。

グラフの増減には為替影響を含む

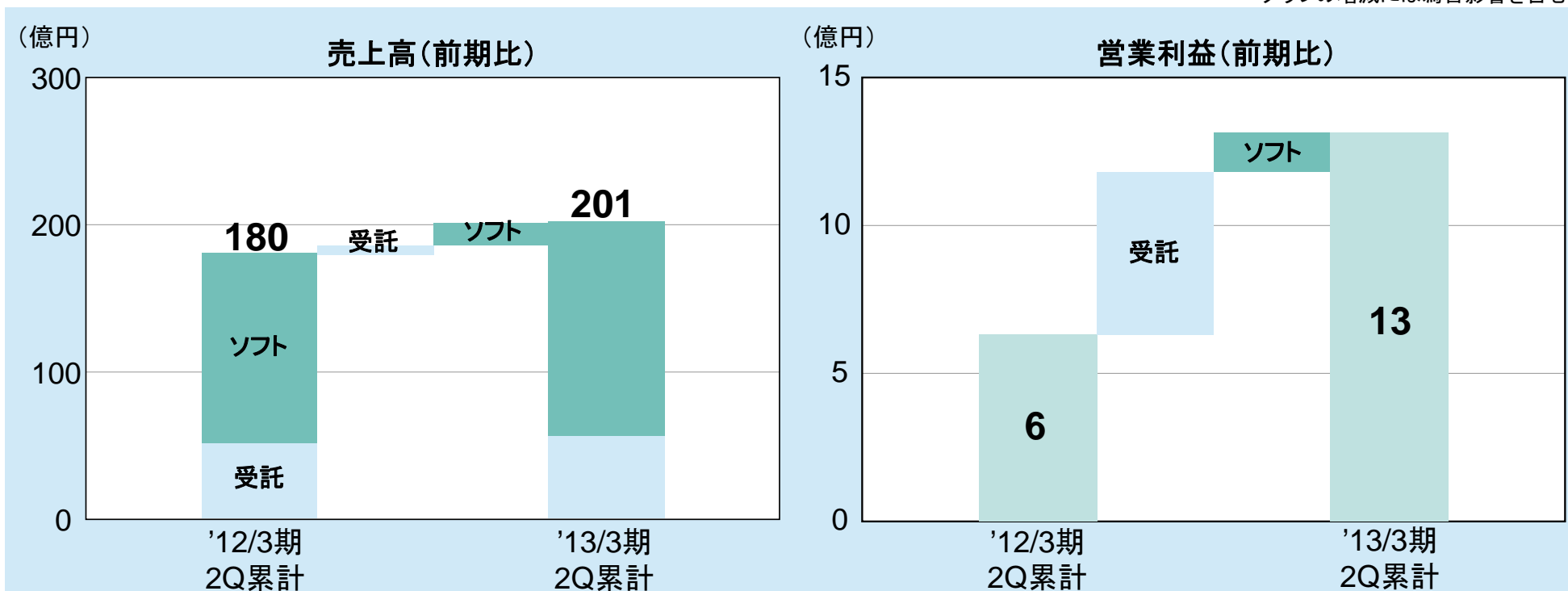


2Q累計 売上高:201億円(+11.7%) 営業利益:13億円(+7億円)

ソフト: 音楽シングル、音楽アルバムのヒット作品輩出。アニメ関連好調持続、権利収入順調で収益拡大。

受託: 光ディスク生産堅調、コスト削減効果により損益改善。

グラフの増減には為替影響を含む



バランスシート

- * 総資産は受取手形及び売掛金の減少、現金及び預金の減少で約183億円減。
- * 負債は支払手形及び買掛金の減少や未払費用の減少に加え、社債や借入金の圧縮などにより、約147億円減。
有利子負債は約76億円減、ネットデットは現金及び預金の減少で約22億円増
- * 利益剰余金は四半期純利益の計上で約6億円増、株主資本合計は約6億円増。
純資産合計は円高の影響により約36億円減も、自己資本比率は総資産圧縮で0.3%上昇。

	'12/3期末	'13/3期 2Q末	(億円) 前期末増減
総資産	2,418	2,234	△183
有利子負債	924	848	△76
(うち長期借入金)	503	71	△433
ネットデット	268	290	+22
ネットD/ELシオ(倍)	0.48	0.56	+0.08
資本剰余金	459	459	±0
利益剰余金	242	248	+6
純資産	571	534	△36
自己資本比率(%)	22.9	23.2	+0.3

キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フロー 84億円の資金増(前期比66億円収入増)

* 前期の雇用構造改革費用支出がなくなったこと、売上債権の減少が主要因

投資活動によるキャッシュ・フロー 80億円の資金減(前期比46億円支出増)

* シンワ株式の取得が主要因

財務活動によるキャッシュ・フロー 87億円の資金減(前期比121億円支出増)

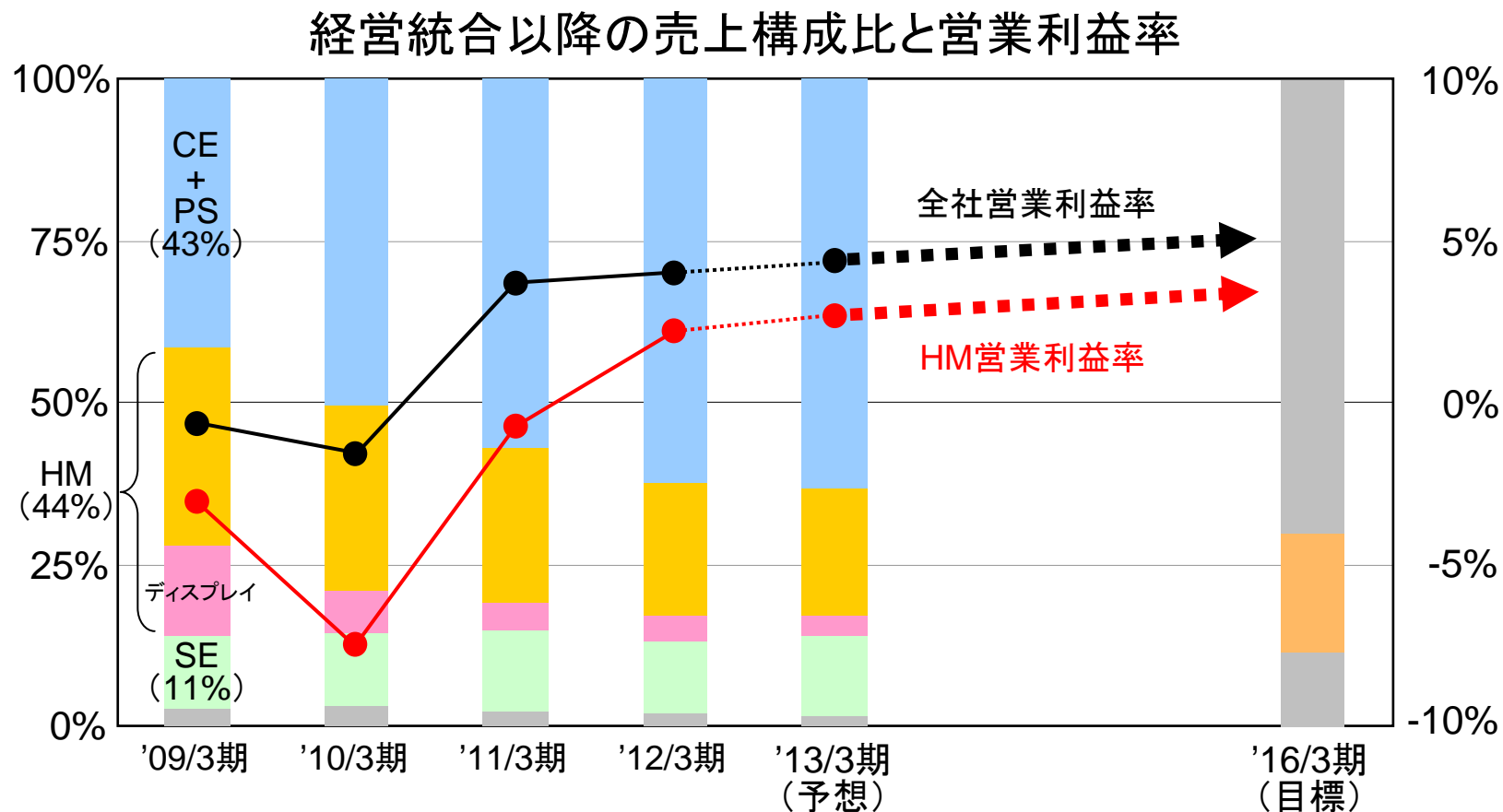
* 社債償還、借入金返済、配当金支払いが主要因

当2Q末の現金及び現金同等物 555億円(前期末比85億円減)

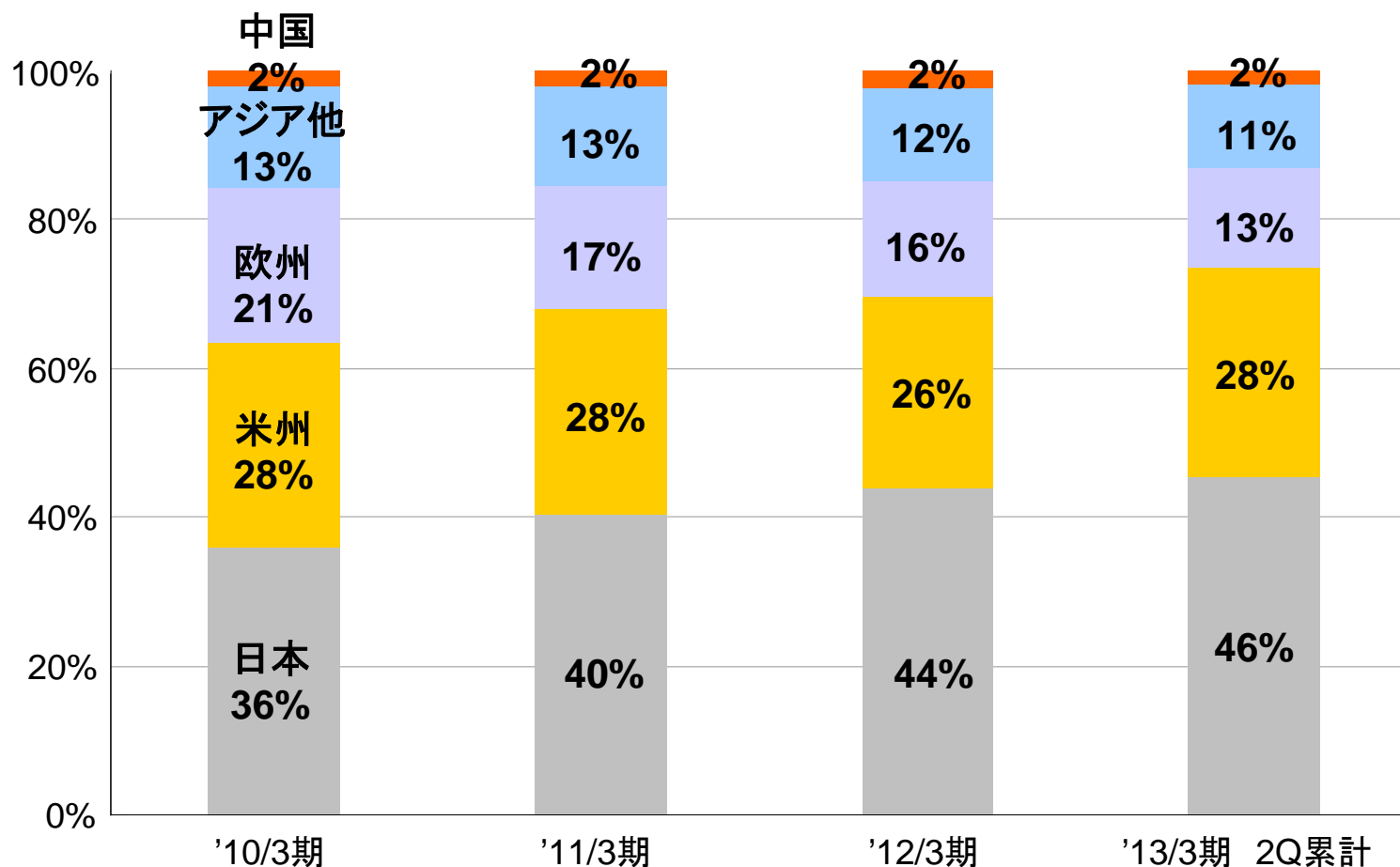
2013年3月期下期の取り組み

代表取締役社長 兼 CEO 江口 祥一郎

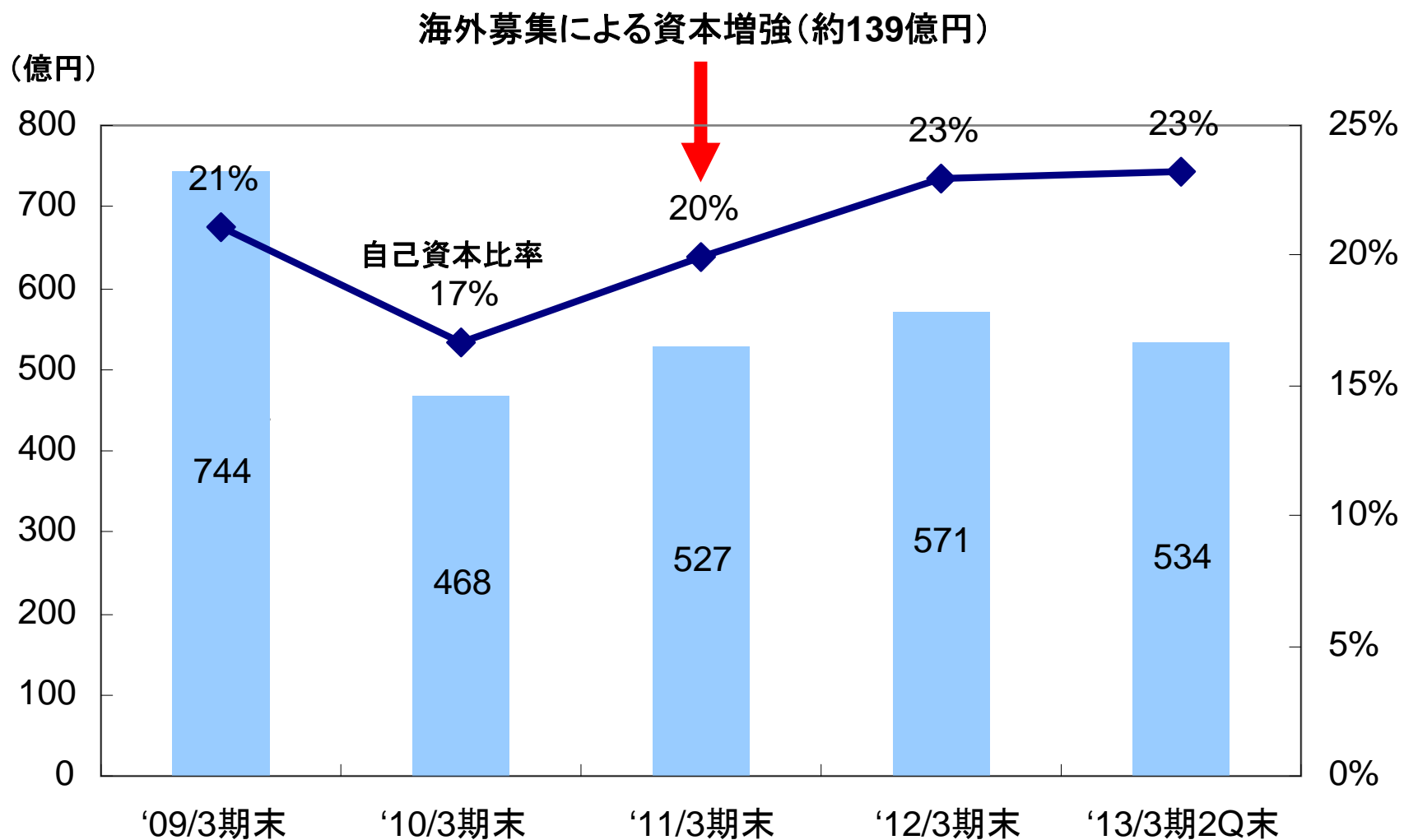
- CE+PSの拡大、HM(民生用AV事業)の構造改革と事業領域の拡大により収益性向上
- '16/3期にはHM比率15%前後へ



- 欧州比率低下で対ユーロ円高リスク、欧州経済悪化リスクは軽減
- 中国比率小さく、チャイナリスクも軽減

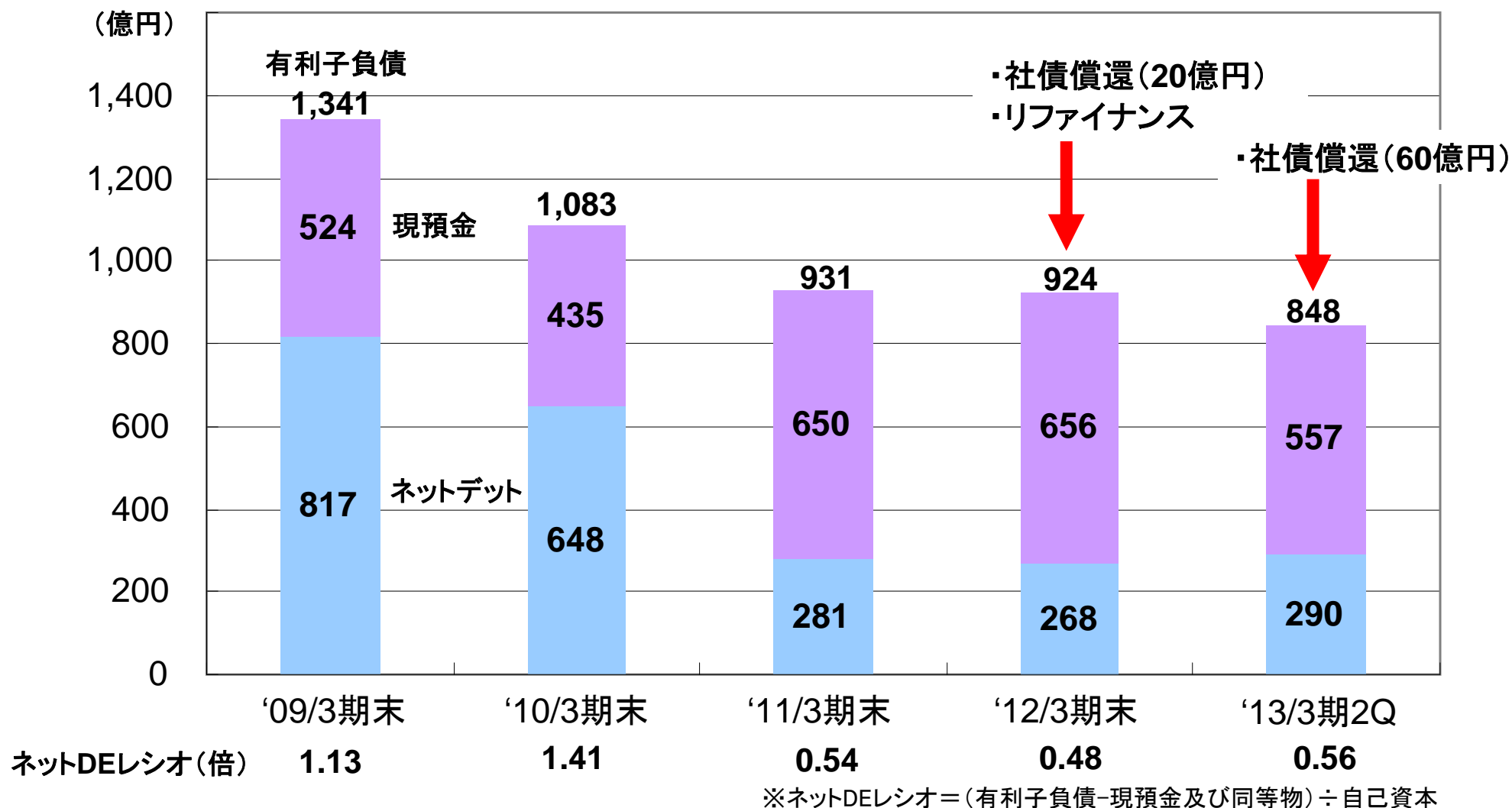


■ 総資産圧縮、純資産増加、'11年1月の海外募集で自己資本比率は上昇



有利子負債 当社推移(億円)

- 借入金返済、社債償還で有利子負債は減少
- '12年3月のリファイナンスで借入期間の長期化も進展



- '12/3期は退職金支出、当期上期は戦略投資(シンワ株式取得)でフリーキャッシュ・フロー減少も、黒字持続

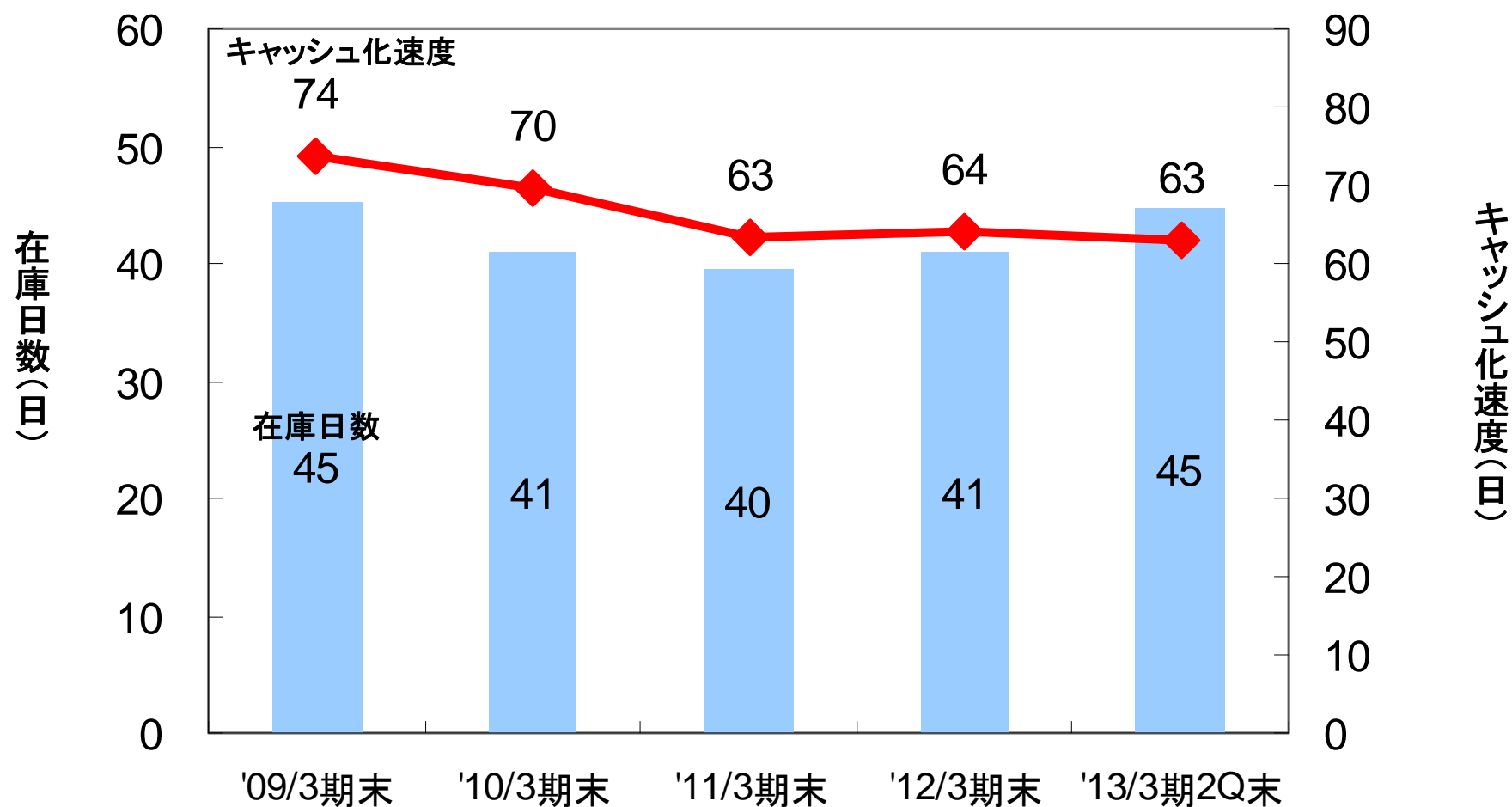
単位:億円

	'09/3	'10/3	'11/3	'12/3	'13/3上期
営業活動によるキャッシュ・フロー	104	215	200	89	84
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 113	△ 32	54	△ 65	△ 80
財務活動によるキャッシュ・フロー	93	△ 271	△ 23	△ 15	△ 87
フリーキャッシュ・フロー	△ 9	183	253	24	4

フリーキャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

キャッシュ化速度／在庫

- 在庫圧縮の取り組み継続中
- 当期上期はCE国内販売減速とBS一部商品出荷遅れで在庫増も、当期下期で改善目指す



※'09/3期末の実績はビクター上期含む参考値

2013年3月期 通期業績予想

2013年3月期 通期業績予想

<売上高>

上期は期初予想に届かず。下期は、上期同様の傾向、欧州経済の回復遅れなどを見込む。

<損益>

上期は期初予想以上。下期は、上期実績をベースに、「戦略投資」の成果、CEとPSの最大販売機会(4Q)を見込み、通期予想を据え置き。

(億円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
修正予想'13/3期	3,200	140	90	70
期初予想'13/3期	3,400	140	90	70
'12/3期	3,209	128	64	60

損益為替レート		1Q	2Q	3Q	4Q
'13/3期	米ドル	約80円	約79円	79円(80円)*	
	ユーロ	約103円	約98円	103円(110円)*	
'12/3期	米ドル	約82円	約78円	約77円	約79円
	ユーロ	約117円	約110円	約104円	約104円

'13/3期の1円円高の場合の影響額(年間:億円)

	売上高	営業利益
対米ドル	△8	+5
対ユーロ	△3	△2

* '13/3期の3Q、4Qは下期の想定レート。()は期初想定レート。

<配当予想の修正について>

- * 年間配当予想額は1株当たり10円を据え置き。
- * 四半期別の配当予想額は、2Q末の配当金を無配、期末配当予想額を1株当たり10円に。

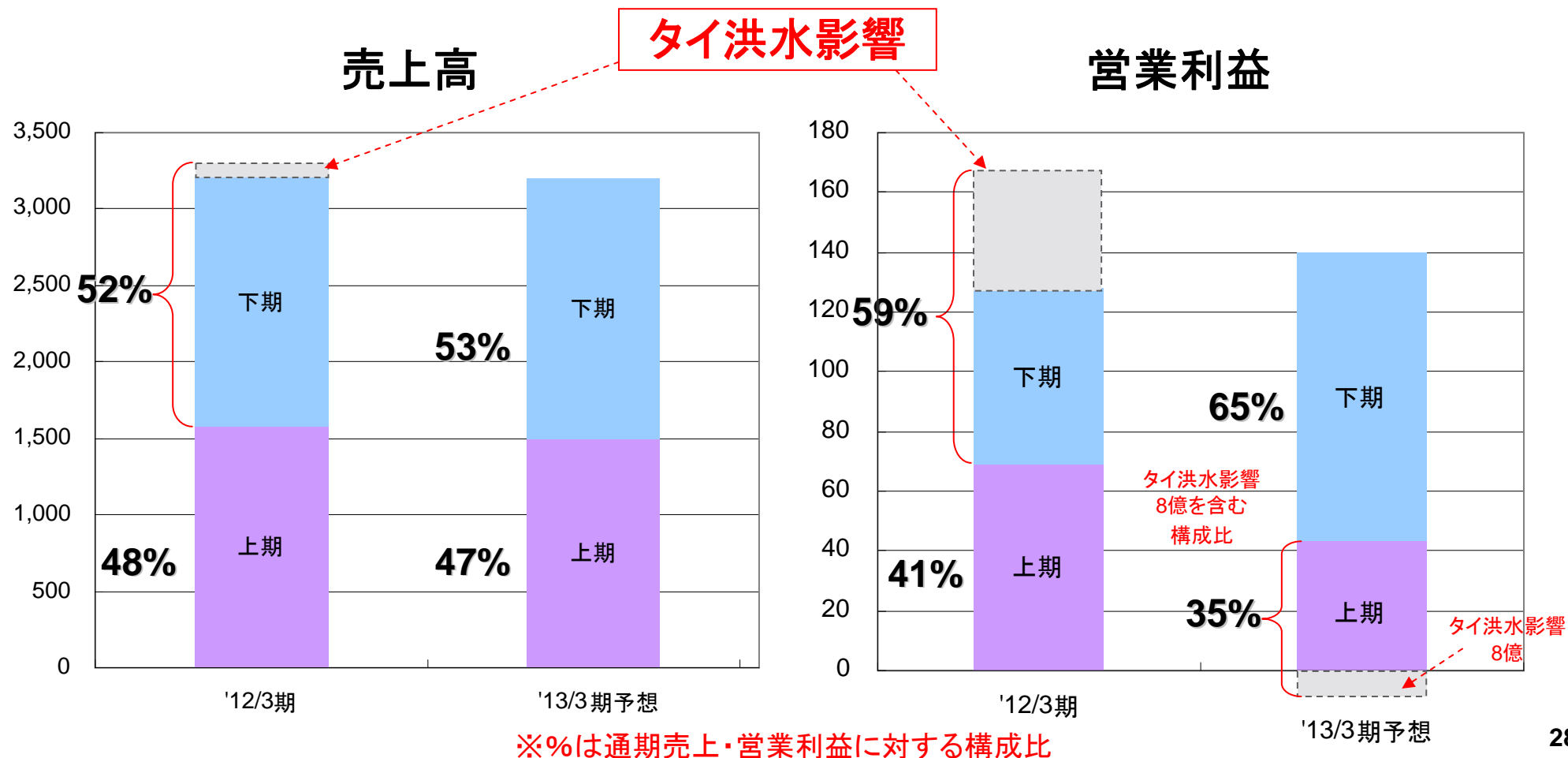
	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
前回発表予想 (平成24年4月27日発表)		未定	—	未定	円 銭 10 00
今回修正予想			—	円 銭 10 00	円 銭 10 00
当期実績	—	円 銭 0 00			
前期実績 (平成24年3月期)	—	円 銭 0 00	—	円 銭 5 00	円 銭 5 00

2013年3月期 通期業績予想 四半期別売上・営業利益構成比

* 下期、特に4Qの利益が大きいという季節要因あり

* 前下期はタイ洪水の影響が売上高で100億円、営業利益で40億円

→ 当下期はタイ洪水の影響がなくなる



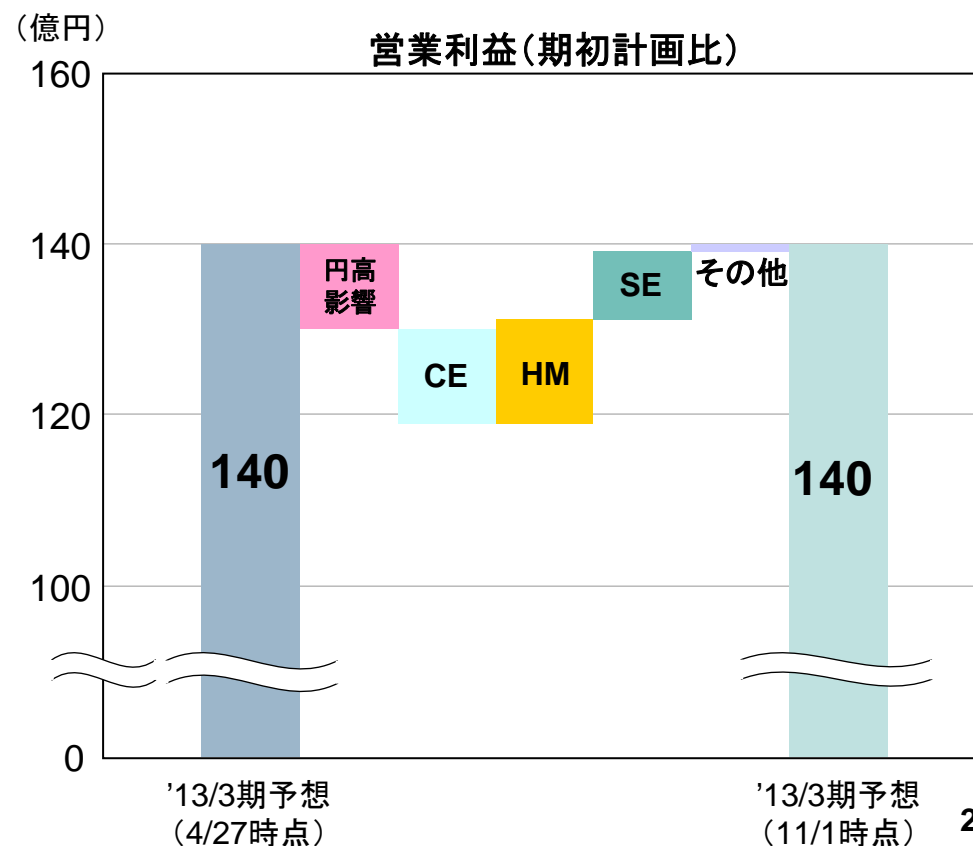
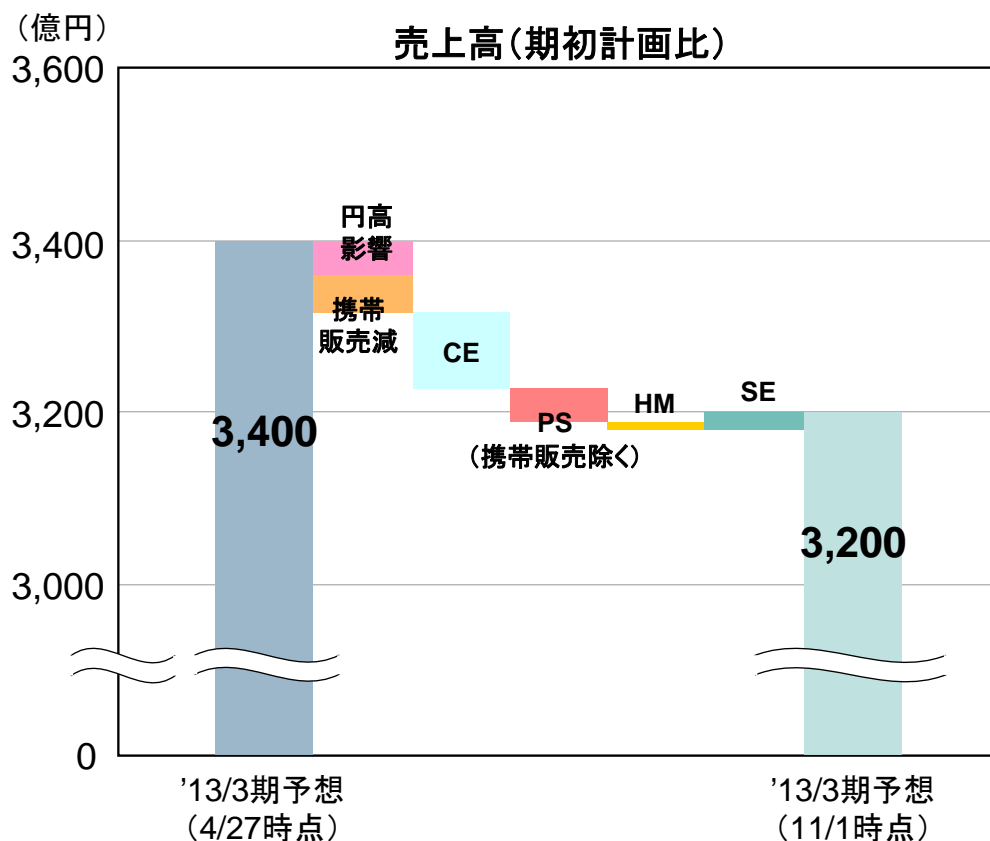
2013年3月期 通期業績予想(期初計画比)

<売上高>

円高、CE国内販売の減速、BS一部商品の出荷遅れ、欧州経済の回復遅れ、携帯電話販売の減少がマイナス要因

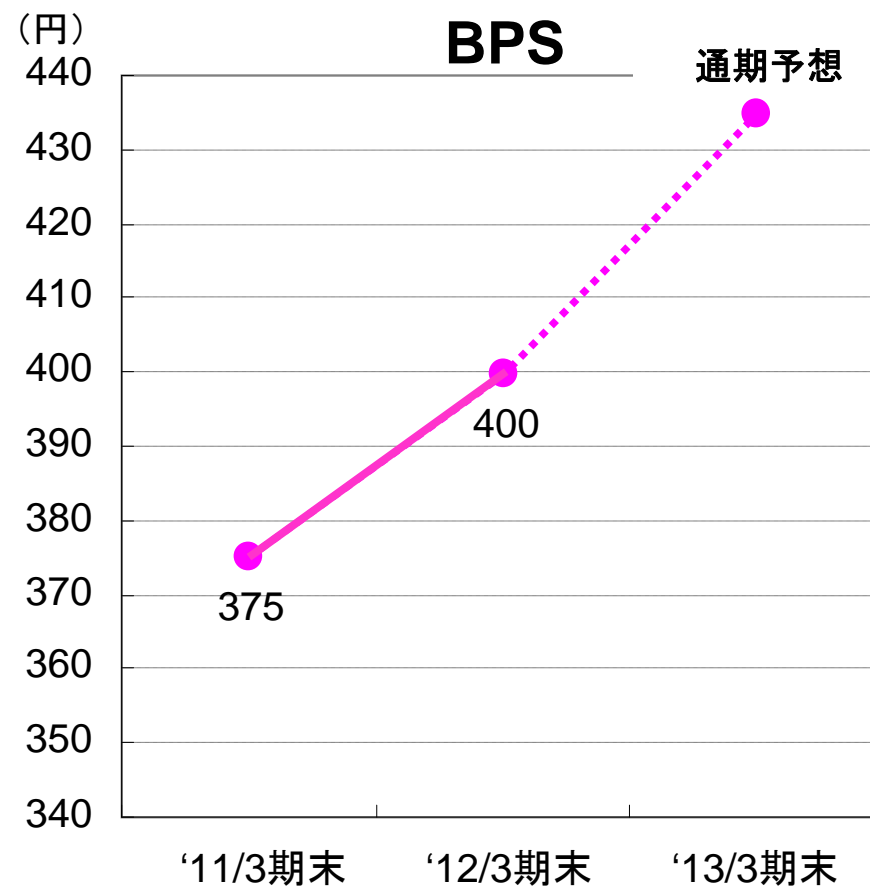
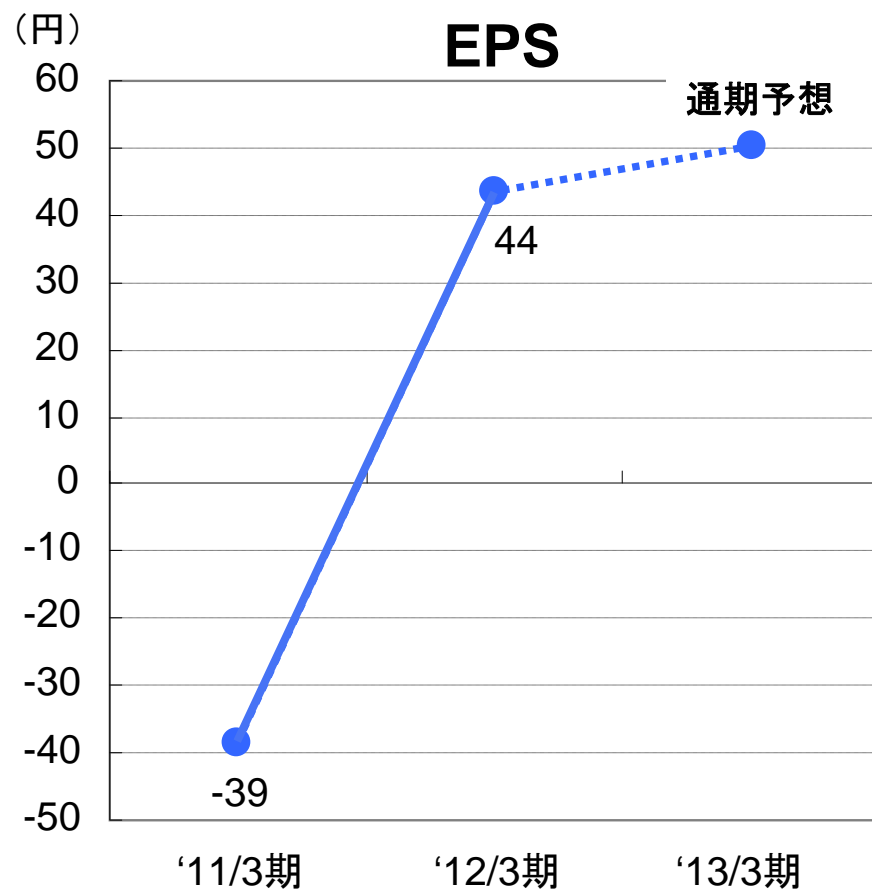
<営業利益>

CEの下振れをSEとHMでカバー



1株当たり利益／1株当たり純資産

- EPSは'12/3期に黒字転換、当期は50円を目指す
- BPSは'11/3期、375円以上 → 当期430～440円を目指す



※通期予想は2Q 末純資産534億円＋当期純利益予想 70億円で計算

重点方針の進捗

「利益ある成長」に向けて、11月1日付で本社部門を再編成

- 本社機能の役割・定義の見直し
- プロフェッショナル・ビジネスサポート部門を新設
- 事業部門、プロフェッショナル・ビジネスサポート部門へ人材シフト

現行本社組織 約1,200人



新本社部門
約160~170人

プロフェッショナル
ビジネス
サポート部門
約780~800人

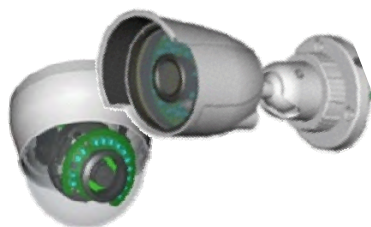
連結バリューチェーン
再構築タスクフォース
(CVC)
約40人が兼務

事業グループへ
再配置
約250人

新興地域戦略本部の設立

- * 新興市場での販売拡大を確実に実行するため、CEO直轄の全社推進体制を2012年9月1日に設立
- * 中国、インドへ商品企画を現地に出向、派遣（年内）

＜新興国向けモデル＞

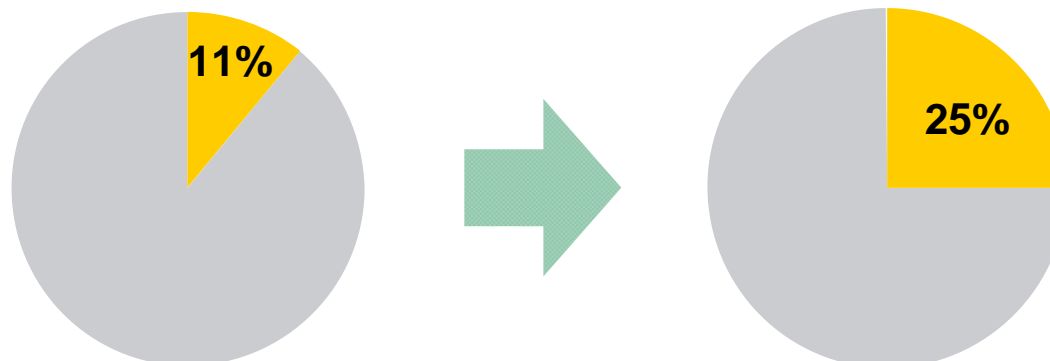


相神本部長



松沢副本部長

新興国^{*}市場比率を、2012年3月期 11%から2016年3月期 25%を目指す

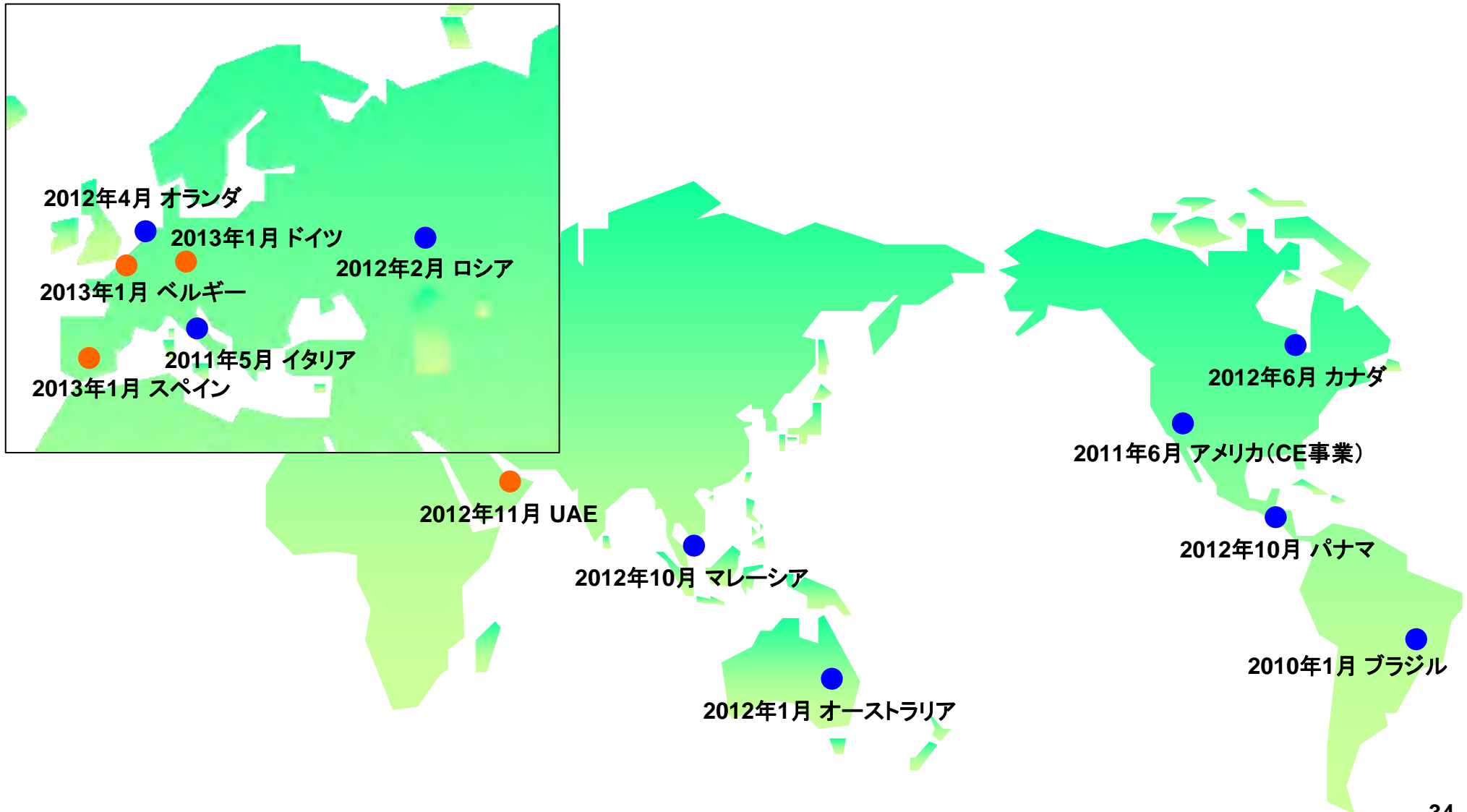


※新興国・・・中南米・ロシア・インド・中国・中近東・アフリカなど

* 海外販社、オフィスの統合

● : 実施済み

● : 実施予定



■CE事業の強化、新興国市場への取り組み

* シンワ株式の取得、資本・業務提携について

- ・ 最初の協業の成果として、戦略メカの開発完了
- ・ メカと光ピックアップの開発を当社が、
一貫生産をシンワが担当
- ・ 従来モデルに比べて部品点数の削減、
軽量化、コストダウンを実現
- ・ 来春より欧州向けに出荷を開始、米州や日本などへ
拡大予定



スキーム

- * 本年4月、資本業務提携、持分法適用会社化(45%取得)
- * 3年以内 シンワを子会社化(76%取得)

会社概要

商号： Shinwa International Holdings Limited / 創立： 1959年
代表者： 内藤 喜文 主席 (Chairman) / 従業員数：グループ 9,462人('11/3現在)
事業内容： CD・DVD車載メカニズム製造販売、自動車用内製部品製造販売 など
経営成績他： 売上高226億円、純資産66億円、当期純利益：8億円

※平成23年12月期連結(監査前)、1米ドル=80円換算

■ 光学関連事業強化への取り組み

* AltaSens社の子会社化



- ・ 本年8月、米国のCMOSイメージセンサー設計・開発会社であるAltaSens社の全株式を取得
- ・ 光学関連機器のコア技術であるCMOSイメージセンサーの技術リソースを自社に取り込み、差別化をはかる

* Syndiant社との資本・業務提携



- ・ 本年10月、超小型LCOS素子のトップ企業である米国のSyndiant, Incと戦略的提携を締結
- ・ HUDほか、車の各種表示装置やモバイル端末への組み込みなど、拡大が見込まれるLCOS市場への取り組み強化

ブランド戦略 <スポンサーシップ活動>

* WTCC (World Touring Car Championship) 2012 (10月21日鈴鹿)
冠スポンサー

WTCC2011にてケンウッドロゴを全世界へ発信



WTCC2012鈴鹿 JVCケンウッドロゴを全世界へ発信



※イメージ

* F1 (ボーダフォン・マクラーレン・メルセデスチーム) (3月~11月)
無線機オフィシャルサプライヤー



重要VIPの招待によるビジネス構築

■ 製品ブランドとコーポレートブランドの訴求強化

- * DESIGNTIDE TOKYO 2012 (2012年11月1~4日、丸の内ショールームにて)
- * 2012年国際放送機器展 (Inter BEE 2012) (2012年11月)
- * エコプロダクツ 2012 (2012年12月)
- * CES 2013 (2013年1月)
- * IWCE 2013 (2013年3月)
- * セキュリティショー 2013 (2013年3月)



DESIGNTIDE TOKYO 2012



事業別の下期の取り組み

① 市販分野

1. マルチメディアビジネスの強化

- ・ 国内販路拡大
- ・ ミラーリンク対応ナビなどスマホ連携商品の拡充と全世界展開
- ・ 新コンセプトナビの投入



2. 新興国市場の販売強化

- ・ 新興市場専用モデル投入
- ・ 中南米向けディーラーオプションビジネスの強化



新興市場専用モデル

3. LCOS方式ヘッドアップディスプレイの商品化



② OEM分野

1. ディーラーオプションビジネスの強化

- ・ パートナーシップによる販売拡大
- ・ インドネシア、タイなどへの専用モデル投入による新ビジネス獲得



2. デバイスビジネスの強化

- ・ シンワとの協業による「戦略メカ」の受注拡大
- ・ 新開発ピックアップの受注獲得



新開発ピックアップ

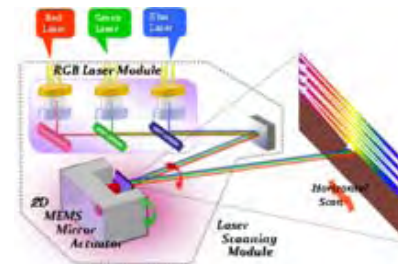


戦略メカ

3. ヘッドアップディスプレイのビジネス獲得に向けた取り組み



LCOS-ヘッドアップディスプレイ



LSM-ヘッドアップディスプレイ

① 無線機器事業の成長

1. アナログからデジタルへの更新需要、新規需要の獲得

- ・ 米国官公庁向けP25の導入推進



- ・ 欧州民間企業向けNEXEDGE販売拡大



- ・ 国内タクシー市場向けデジタル車載無線機を導入



2. 新興国市場への取り組み

- ・ 中国公共安全向けPDT端末



- ・ 未開拓市場における販路開拓

- ・ 地域密着型無線端末システムの導入によるインド他の市場創造

3. アマチュア無線 HF最高級実践機の導入



② ビジネスソリューション事業の成長

1. 業務用カメラビジネスの強化

- ・ ドーム型セキュリティカメラ導入によるHDIPカメララインアップ強化
- ・ 業務用ビデオカメラのミッドティアラインアップ強化



2. 新興国への取り組み

- ・ ローティアセキュリティカメラの投入によるアジア拡販
- ・ 中国公共安全向けOEMビジネス拡大
- ・ 業務用カムコーダーのローティアモデルによる中南米、アフリカ市場攻略



3. COM連携

- ・ 業務用無線販売ルート連携による販売シナジー強化

下期の重点施策

1. 事業／商品領域の拡大

- ・ 既存の発想から脱皮した**新概念商品**の投入
- ・ **提案型商品**による新たな市場の創出

2. 市場の二極化への対応強化

- ・ **アセットライトビジネス**へのシフト
- ・ **高付加価値モデル**への集中
- ・ **新興市場向けモデル**の投入

3. 他の事業との連携強化

- ・ ADIXXIONの**CE販路での展開**
- ・ BS事業との**4K(カメラ／プロジェクター)**の協業
- ・ SE事業との**融合事業の推進**

新概念商品



提案型商品



※イメージ

下期 期待の作品  **VICTOR ENTERTAINMENT**

家入レオ
「LEO」

10月24日発売

17歳現役高校生シンガーソングライター。
待望のファーストアルバムは、オリコンデイリー
ランキングで即日<第1位>にチャートイン!

THE BAWDIES
「LEMONADE」

10月31日発売

8ヶ月ぶりとなるニューシングルは
向井理出演「PENTAX Q10」の
テレビCM曲として全国でOA中。

クリープハイプ
**「おやすみ泣き声、
さよなら歌姫」**

10月3日発売

尾崎世界観率いるクリープハイプ。
メジャー1stシングルの同作は、
オリコンデイリーランキングで
新人ながら即日<第5位>に!

下期 期待の作品  **TEICHIKU
ENTERTAINMENT**

**関ジャニ∞
「8EST」**

10月17日発売

関ジャニ∞初のベストアルバム。
デビューシングル「浪花いろは節」
から映画「エイトレンジャー」主題歌
「ER」までのシングルを全て収録。

**秋川 雅史
「You Raise Me Up」**

10月24日発売

2年ぶりのニューアルバム。
「天城越え」「千の風になって」
を含む全11曲収録

**BEGIN
「トロピカルフーズ」**

10月24日発売

ブラジル、ハワイ、沖縄...
様々な土地を巡って来た
音楽旅団・BEGINがお届けする
トロピカルで美しい全12曲。

JVC KENWOOD

creates excitement & peace of mind

このプレゼンテーション資料に記載されている記述のうち、将来を推定する表現については、将来見通しに関する記述に該当します。これら将来見通しに関する記述は、既知または未知のリスクおよび不確実性並びにその他の要因が内在しており、実際の業績とは大幅に異なる結果をもたらす恐れがあります。これらの記述は本プレゼンテーション資料発行時点のものであり、経済情勢や市場環境によって当社の業績に影響がある場合、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。実際の業績に対し影響を与えるリスクや不確実な要素としては、(1)主要市場(日本、米州、欧州およびアジアなど)の経済状況および製品需給の急激な変動、(2)国内外の主要市場における貿易規制等各種規制、(3)ドル、ユーロ等の対円為替相場の大幅な変動、(4)資本市場における相場の大幅な変動、(5)急激な技術変化等による社会インフラの変動、などがあります。ただし、業績に影響を与える要素としてはこれらに限るものではありません。